

Fusyo Collaboration letter

9月17日 No.25 文責 廣田 秀俊



自分の命を守る行動を

予告なし避難訓練を実施しました。休み時間に震度5強の地震が起き、出火のため運動場に避難することを想定して行われました。

緊急地震速報を聞き、すぐに机の下に隠れ、出火元を聞いた後は、すばやくグラウンドへ駆け出す児童の姿が見られました。全校児童一人一人がしっかりと避難し、話し声なく待機している立派な姿がありました。全校児童が避難に要した時間は3分57秒でした。



避難の仕方をしっかりと身に付けている子供たちです。廊下の中央で身を守る姿勢を取り、理科室からの出火を聞き、場所を選んで走り抜けることができていました。これはとっさの判断力と聞く力が必要となってきます。避難の際に、この地震がどんなものなのかをイメージしている様子も見られました。

災害が起きれば、予想外のことが起こります。命を守る方法を、避難する道を、自分で判断しなくてはなりません。目と耳で情報をキャッチしながら、守るべき約束「おはしもち」を意識して行動していました。例えば、地震の際に、周りの状況を見て、落下物等がなく身を守る安全な場所へ駆け込んだ6年生。避難時の混雑を察して、経路を自分で判断した3年生。避難訓練を重ねることで、命を守る行動をいかに真剣に行うかをそれぞれが考えていました。



振り返りの場面では、各学級で成果と課題を出し合いながら自分たちの行動を見つめ直していました。話し声はどうだったか、気を抜いて行動していなかったか、などの問い直しをしている学級がありました。また、冷静に判断して行動できた、すぐに反応することができたなど、よかった点を皆で確認し合うクラスの様子も見ることができました。



学年での振り返りのなかで、こんな声も聞こえてきました。

「高学年として、放送を聞いてきちんと全部実践することができた」

「1年生をグラウンドへ送り届けることができた。混雑時にどうするか考えたい」

「訓練開始時から冷静に行動できた。下級生のお手本となる姿を見せていきたい」

「真の力を発揮するために、行動で示していきたい」



災害は突然やってきます。どこに居ようと自分の命を守ること。火災でも、地震でも、災害が起き避難が必要なときは、まず自分の命を守ること。命より大切なものはありません。

